

無料のタウン誌です。ご自由にどうぞ



**2024年春・76号**

信条・世に媚びず ・ 粹にとらわれず  
・ 言いたいことはハッキリ言おう

発行/吉田 進  
携帯 090-3168-1063  
FAX 072-863-0605  
〒110-0015  
東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL : <https://lifecrossing.ne.jp/>  
E-mail : [info@lifecrossing.ne.jp](mailto:info@lifecrossing.ne.jp)

人生・生活・命の交差点/季刊(創刊2001年)



輪島市中心部の倒壊した7階建ビル (フォトジャーナリスト・山本宗補氏撮影) 1月11日

## CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・自分のことを書いています。

金権政治の自民党にガマンしますか  
沖縄の苦悩知らずして沖縄を語るな 吉田 進… 2

能登半島大震災の被災地に見る  
教訓を学ばない国の姿  
フォトジャーナリスト 山本 宗補… 3

たたら製鉄の源流 新潟県三条市 丸山 善三… 4

吾唯足知 北里大学名誉教授 馬淵 清資… 5

極端な反対運動は逆効果 大阪 貴澄 ハル… 6

保守自民党は何故強いのか?(その1) 東京 三田 栄考… 7

自民党の金権体質を変えるには政権交代しかない  
-実態把握をさせない隠れ蓑、派閥解散-  
立憲民主党 埼玉県 市来 伴子… 8

先島諸島訪問記(2)  
下町の法律事務所弁護士 栗原 周成… 9

コスタリカ 軍隊をも持たない多様性国家  
在コスタリカ20年 ネイチャーガイド 原田 信也… 10

プーチンと同じ蛮行、秀吉の朝鮮征伐? 侵略!  
寵臣の石田三成が身を挺していさめたが……  
佐和山 島 左近… 11

人々の小景<sup>25</sup> タラス・シェフチェンコ  
-人間と民族の誇りを詠った吟遊詩人- 市川 隼… 12

「市民参加条例」って何?  
「市民参加条例」推進委員会代表 松井 学… 13

消失した街ガザ北部 Beit Hanoun  
イスラエル軍でも広がる厭世気分 増山 麗奈… 14

エッセイ 新聞は時代遅れか 前島 咲子… 15

余録/編集後記…………… 15

不祥事続発で全国注視の突然の江東区長選挙顛末記  
前江東区議会議員 甚野 謙… 16

# 金権政治の自民党にガマンしますか

## 沖縄の苦悩知らずして沖縄を語るな

吉田 進

今年辰年、「希望が立つ年」と年賀状を出したら、元旦には能登の大地震。2日には羽田空港で航空機の衝突炎上事故。改めて「めでたいか、何がめでたいおらが春」に年賀状の文を替えた。一方、国外では戦争・紛争が絶えず、国内では自民与党による「カネと政治」問題が再出。続けて沖縄・辺野古では米軍飛行場工事の代執行が行われるなど、腹が立つことだらけ。岸田首相が唱える「新しい資本主義」どころか「新しい政治」をめざさなければ。

### 政治の沙汰もカネ次第

かつて、ある野党の国会議員が、勝ってパンザイする自民党に対し、「八岐大蛇を退治せなアカン」と訴えた。八岐とはカネを喰う自民党の八派閥のこと。今回またもその大蛇がパーティーで集めたカネを裏ガネとしてキックバックしていることが公となり、政権の要職にある派閥議員がぞくぞく逮捕、起訴された。

その一人、谷川弥一議員は、「裏金は官僚たちに飲ませて食わせ、二次会では女性が接待する店を利用。それで大臣ポストをめざした」「気持ちの悪いカネで、口座には入れられない」と言って議員を辞職した。こっちも気持ちが悪くなった。そこで自民党は今、派閥を解体したり、しなかつたりで政治資金規正法

を行うというが、国民の多くは「それは茶番」と見ている。

### 沖縄の自治を食らう大蛇

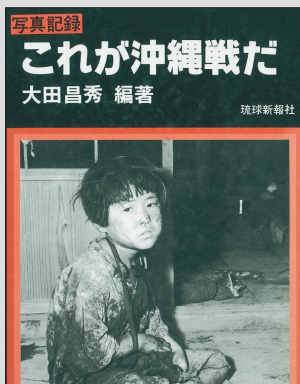
憲法は国の関与を最小限に抑え、住民の自治を保障。地方分権一括法では国と地方の関係を「対等・協力」としている。だが、政府と司法は米軍普天間飛行場を辺野古へ移設する工事をめぐり、反対する沖縄の民意（公益）を無視し、強引に工事の代執行を行った。

先の大戦で本土決戦の盾となり、大きな犠牲を払って米軍の「植民地」となった沖縄県民のキズは深い。今でも日本にある米軍基地の70%が沖縄にあり、沖縄県民の所得は本土所得の70%という現実だ。一方、歴代首相も大なり小なり沖縄に寄り添い、対話で

信頼関係を保ち、日米安保体制への理解を得ようとしてきた。しかし岸田首相は沖縄県が求める移設問題解決への決意にも応じていない。

日本一危険という普天間飛行場の辺野古移設工事。サンゴ礁など豊かな生態系が工事によって破壊されるうえ、完成が予定より20年以上ずれ込み、代執行地の海底は「マヨネーズ状態」の軟地。海面から90mの深さで、約9万本の杭打ちが必要というから驚く。普天間の滑走路は2800mだったが、辺野古は1キロ縮小して1800mの滑走路に。さらに米軍は軽いもの

しか搭載しないと、重要な戦略拠点となる辺野古だ。軽いものだけの運搬で済むわけがなく、危険極まりない状況になることは容易に考えられる。それに加えて政府は沖縄へ支給する交付金を空港賛成派に上積みし、住民間の分断を図るアメとムチの政策を進めている。「工事は海にカネを捨てるようなもの。そんなカネがあるなら能登の震災復興に使え」という沖縄県民の声に呼応して、小生も「政治家の裏ガネもや」と共鳴したが、政権交代を託せる野党がないということが問題だ。やれやれ。



### 沖縄戦の生き証人

沖縄戦は、太平洋戦争末期に一千数百隻の艦船で侵攻してきた五十万余り

の連合国軍と十一万余の日本軍とが勝敗をかけて激突した一大決戦であった。狭小な沖縄で展開された激戦の様子は、一米従軍記者が「戦争の醜さの極致だ。それ以外どうこれを説明しようもない」と述べた言葉そのままの悲惨さであった。（序文）  
（写真は女性なら殺されないだろうと女装した男の子）



# 能登半島大震災の被災地に見る 教訓を学ばない国の姿

フォトジャーナリスト 山本 宗補



輪島市中心部の倒壊した家屋

2024年元旦に発生した能登半島大震災は、私たちを再び悲しみの底に突き落とした。2月1日の時点で、死者238人、安否不明者19人、住宅被害は石川県だけでも約4万6300戸、断水は4万戸に及ぶ。

地震発災時、長野県佐久市

のスキー場でバイト中の私のスマホにも緊急地震警報。地震被害に縁のない地方なので驚き、震源を確認すると、能登半島とわかった。直線で190キロ離れている。一瞬、原発震災の不安が頭をよぎった。11年前、輪島市や北陸電力志賀原発周辺の取材をしたことがあるからだ。

火山地震大国の日本で自然災害は避けられない。だが、今回は十分な予兆があり、起きるべくして起きた震災であり、被害の深刻さだといえる。能登半島では、2020年12月頃から群発地震があり、2022年6月に最大震度6弱、去年5月にも最大震度6強を観測してい

た。「謎の地殻変動」が起きていると専門家は指摘。2007年の能登半島地震（M6・9、震度6強。全壊家屋684棟）の大きな被害は、住民の記憶に新しい。当時の震央から18キロの志賀原発は、当時も今回も、幸運にも稼働停止中で、東電福島第一原発事故の二の舞は回避された。

近年の度重なる震災と予兆。万が一の事態に備えていたはずの国も石川県も、初動の遅れは指摘されている通りだ。知事による自衛隊出動要請の遅れは致命的。発災後の民放が、1社を除き正月特番を3日間垂れ流し、地震報道がなかったことは、お粗末極まりない。

バイトの休みを取り、2泊3日の予定で1月9日の夜中に長野県の自宅を出発。道路事情と積雪を考慮し、救援物資の灯油（18リットル6本）と冬用靴下を軽トラに積み、輪島市に着いたのは夕方4時過ぎ。市役所駐車場は、地割れと隆起で被害は甚大。市民文化会館で救援物資を渡し、役割を果たせたことにホッとした。駅前駐車場で車中泊し

たが、同じく車中泊する地元男性は言った。「東日本大震災でも熊本地震でも、実感がわかず、自分の身に起きて初めて大変さがわかった」。

10日と11日は、駆け足で取材しながら帰路について。以前に撮影した朝市通りと周辺は無惨な焼野原。阪神淡路大震災の神戸市長田区や、東日本大震災の宮城県気仙沼市の記憶と重なった。市内中心部のマンホールの隆起は1mほどで、路面は波打っていた。洒落た木造建築の美しい街並みは、地殻変動を伴う地震で見ると影もなかった。

輪島市中心部から、市西部の門前町に移動するのに迂回路で3時間かかった。11年前に来たところだ。当時は大修復工事中だった曹洞宗大本山総持寺祖院。修復工事は2021年に完了していたが、11日早朝、祖院の敷地に入ると、回廊は完全にペシャンコ、被害の規模を実感した。門前町道下（とうげ）集落は倒壊家屋が多く、海に出ると、黒島漁港は、2m以上の隆起により海底が露出し、漁港の機能を失っていた。前日に耳にした輪島市役所関係者

の一言が、頭をよぎった。「輪島市の人口は半減するといわれている」。

志賀原発のある志賀町内の海側の道路を南下し、津波被害の顕著な西浦漁港、原発近くの福浦港にも2メートル超の津波が到達していた。志賀町は、元旦に震度7、6日には6弱を記録したが、驚いたことに海沿いの幹線道路の復旧は早く、交通量は少なかった。志賀原発では、変圧器からの大量の油漏れ、外部電源の一系統の喪失など、原発事故を連想させる不安な被害状況が後だしにされ、不安が掻き立てられた。排気塔が間近に見える家の70代男性はつぶやいた。「外部電源が止まっていれば、能登半島は死の半島になっていただろう」。能登半島の地図を見てもないが、「死の半島」の意味は、原発震災が発生すれば、家屋はつぶれて屋内退避はできず、避難路も、水も食糧も断たれた住民が、安全圏に脱出不可能となる事態が長期間生じる現実だ。「安全を基本に原子力は未来を支えます」の看板が、道路端に白々しく立っていた。

山本宗補氏：1953年長野県生まれ。85年からフィリピン、88年からミャンマー、中東を取材し、老いや戦争の記憶を追い被爆後の福島を撮り続ける写真家。著作に『戦後はまだ』『3・11後の人びと』新刊『鎮魂と抗いの12年』。

先般、広島地区に出張して、新幹線広島駅の待合ロビーで有数の工業県広島の紹介がされていた。そこには、古来より当地区が地形的にも中国山脈の鉾山から採掘される砂鉄を原料とする「たたら製鉄」と呼ばれる製鉄技術の地であることが、デジタル広報で紹介されていた。以前にも当ブログで鉄について掲載したが、広島でみた「たたら

## たたら製鉄の源流

新潟県三条市 丸山 善三

製鉄」についての記事は、一層の興味を掻き立てた。

ここで日本から遠く海外に目を向けて「たたら製鉄」の源流について述べてみたい。

さて日本への鉄の伝来は、紀元前三世紀頃（弥生時代中期）朝鮮半島からであると述べてきた。果たして世界史の中で鉄の起源は、何処であったのか？この問いに対しての答えは、数千年の時をさかのぼり鉄の源流を探っていない

ればならない。

鉄と人類との関りは、紀元前三五〇〇年頃であると云われている。隕石の中で遊離した鉄（隕鉄）や地表に露出した鉄鉱石が山火事によって変化した鉄塊を人類が発見したことにより鉄は、人類の前に最初に現れた。

鉄の利用を考えると国家として史上初めて製鉄技術を獲得しそれらを使用した国が

あった。時代は、紀元前、中東地域である。この国は紀元前十七世紀頃から鉄の生産技術を会得し鉄製の戦車を戦闘で使い近隣諸国を征服しオリエント世界を席捲した。

その国の名は西アジアの「ヒッタイト帝国」である。ヒッタイト帝国は現在のトルコ中部に位置し他の民族が青銅器しか作れなかつた時代に、高度な製鉄技術によりメソポタミアを征服したと云わ

れている。更に当時、北進し勢力を拡大していたエジプト王国をも脅かしてきた。当時の状況を現代で例えると、ハイテク技術を駆使して軍事力を養いその力で周辺諸

国滅亡後は、東アジアから四方へ製鉄技術の伝播が起こり、エジプト、西アジア、ヨーロッパ、ユーラシア大陸を横断し紀元前十世紀にはインドに、そして紀元前九世紀には中国華南地方に伝わり紀元前三世紀にはついにユーラシア大陸の東端日本に鉄の伝来をもたらした。



たたら製鉄

国の覇権統治を行ったと云う事であろうか。しかしながら彼らは、紀元前十七世紀から約五〇〇年後の紀元前十二世紀に製鉄に必要な熱源である森林資源が枯

た。ここでは、日本への伝播ルートである現在のトルコからユーラシア大陸東方に至る経路を詳しく示してみたい。ヒッタイト帝国（現在のトルコ）から始まった東方への

伝播経路は、カスピ海南部のイランのテヘランからアフガニスタンを経てパキスタンを過ぎてインドに至る。更にこのルートはインドのカルカットからミャンマーを抜け、雲南、四川、長江流域に沿って成都から西安（長安）に入るいわゆる西南シルクロードと呼ばれるルートである。西南シルクロードは北側のシルクロードより古く強い鉄伝播のルートであったと云われている。また西南ルートは「稲の道」とも考えられているルートでもある。稲の伝播は、雲南から長江の流れに沿って東シナ海の海岸線から北上して日本に伝わった。奇しくも稲も又鉄伝来と同時期の弥生時代に日本に伝えられた訳である。

島国日本は、製鉄の熱源となる照葉樹林と稲作に必要な水資源である多くの河川を有する。更に出雲をはじめ中国地方に連なる砂鉄を産する土壌と米造りの関連性も明らかになった。この様に鉄と稲作の伝来は、稲作に適した風土と気候、それに鉄製農具が及ぼした相乗も加わり、稲作文化の形成へ大きくつながって行くことになった。



# 吾唯足知

北里大学名誉教授 馬淵 清資

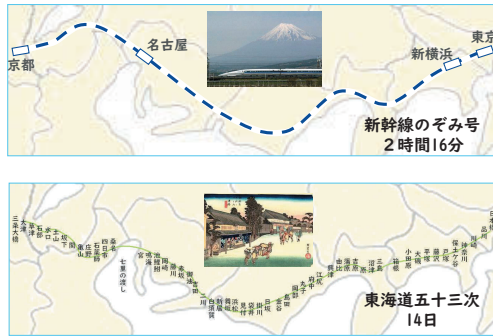
♪デカンシヨ、デカンシヨ  
で半年暮らす 後の半年ヤ、  
寝て暮らす：

「でかんしよ節」が、学生歌として世に出た百年前。平均寿命は五十年足らずだった。その人生のほとんどを働き続けていた人たちにとって、「半年寝て暮らす」は、夢物語だっただろう。

それが現在、平均寿命が八十歳を越えた中で、現役で仕事する期間は、約四十年、一生の半分。まさに、デカンシヨ節の世界が到来している。産業革命によりエネルギー機械が登場して以来、人々の労働時間は、短縮の一途を辿り、現在に至った。しかし、この状況が、はたして、心の豊かさを、もたらしているのだろうか。

その昔、江戸から京都までの辿る旅は、二週間ほどの行程だった。それが、現在では、新幹線で二時間と少々

行程である。出張旅行ならば、余りの十数日は、京都観光してもよいはず。しかし、時間当たりの仕事の効率の上昇に伴い、何もしないでいる



東海道の旅今昔

さに拍車をかけて、心のゆとりを奪って行くようだ。

にもかかわらず、科学技術の進歩は、留まるところを知らず、交通機関のさらなる高速化を目指している。しかし、リニアモーターカーの導入によって、東海道の旅が、1時間短縮しても、おそらく、我々の生活は、大きく変わらないだろう。その一方で、移動速度の向上が、忙しさを増して精神的ストレスを増すのは必然である。

また、リニアの線路を轆くために、森を切り開き、山を削る。その所業は、太古から我々の精神のよりどころだった自然環境を破壊する。そうして作られた鉄路を走る列車の車窓から見える風景は、間違いなく荒廃したものになる。トンネルの中を長時間走るのは、論外である。想像しただけで息苦しい。広重の絵心を刺した東海道五十三次の風景は、そこにはない。新幹線ですえ、車窓から見える富士山が、旅に貴重な彩りを添えていたというのに、残念なことである。

と号した龍安寺というお寺が京都にある。その庭に「吾唯足知」と刻字されたつくばいがある。龍でさえ「足るを知る」ことで、安らぎを得られるようだ。全能の龍のごとき科学技術も、ここらで、「足るを知る」べきではないだろうか。



龍安寺のつくばい

でありながら、車窓の景色を楽しむという観光を目的としているため、あえてゆっくりと走る。我々の感性（本能）が美しいとか面白いと感じるための時間的なゆとりを与えることで、精神の涵養をもたらす。

そうした観光はもとより、文化的な活動、たとえば、短歌、俳句、小説、漫画などの文学、音楽、芸術といった芸事、球技や登山などのスポーツ、囲碁、将棋、麻雀、テレビゲーム。これらに参加したり鑑賞することは、無為な時間を、有意義なものに変える有力な手段になる。

現在、そうした趣味の世界において、テレビ、ラジオ、スマートフォンなどの情報機器やそれを支えるインターネットシステムの果たす役割は、非常に大きくなっている。ただし、情報の授受をする作業は、理性の働きで、その情報の価値を判断するのは、感性である。

感性の価値基準は、遣伝子に刻まれているので一朝一夕には変わらない。心に響く山河の自然な風景を後世に遺すことは、重要である。



## 極端な反対運動は

### 逆効果

大阪 貴澄 ハル

昨年の自民党は酷かった。

支持率は下がるに下がり、とうとう20%以下。20%以下の政党に政治を任せていいものかと思うが、それでも野党第一党である立憲民主党の支持が伸びない。残念ながら一部のシンパを除き、誰もが応援しようとは思えない理由があるはずだ。いろいろ要因はある。本稿ではその要因のひとつについて触れたい。

自民党の体たらくは当分続くだろう。逆転する余地はある。それにはまず理解者を増やさねばならない。左派・中間層・右派の割合は2…6…2であるようだ。100人いれば、左派・右派が20人ずつ、そしてそのどちらでもない人が60人。右派を左派（あるいは逆）に転向させるのは無理である。どちらでもない

60人を如何に取り込むか。

現実を無視した極端な反対運動や、中間層が眉をひそめるような露骨な反対運動は、逆効果だ。中間層を取り込むどころか逃げていく。

昨年12月、沖縄県石垣市で、反基地運動を展開する『新日本婦人の会』が、高校の敷地内（勿論無断侵入）で「赤紙」を模したチラシを生徒たちに配布した。こんな運動を展開したとして、一体誰がシンパとして協力してくれるのだ？ ひょっとしたら賛同してくれる人がいるかもしれない。しかし、ごくごく一部である。たとえ一部の人が賛同したとしても、中間層の多くがますますその行為にドン引きする。結局支持の割合は変わらない。いや減る一方だ。

ニュースの

詳細は書かないが、学校側がそんなことを許すはずもなく、現場に激しい口論が続いたことは、反基地活動家らの普段

の行動を考えれば容易に想像できる。

※ニュース詳細はネットで検索してもらえばわかります。

#### 理想主義者「まず話し合い。対話が第一」の矛盾

戦争の対義語が平和だとすれば、「戦争反対」平和を愛する」となるはずだが、その平和を愛する人々が攻撃的なのはこういうことだろう。ジョンレノンはその歌『イマジン』で彼の理想を訴えた。♪想像しよう。国も宗教もない。殺す理由も死ぬ理由もない。欲張ったり飢えることもない。人はみな兄弟だ。そんな平和な世界を♪僕を夢想家だと言うかもしれない。でもそれは僕だけではないはずだ。いつかみんな仲間になって、世界はひとつに

なる日がやってくる♪世界の人々がひとつになればどんなに素晴らしいか。しかしそれは理想であって現実ではない。

現在の世界情勢を鑑みれば、テロや戦争がそう簡単に無くなるとは思えない。激しくなる一方だ。よって十分な防衛力を備えず「まず話し合い。対話が第一」と訴えるには無理がある。

私として軍拡は反対だ。人を大量殺傷する武器なんぞなくなっただ方がいい。しかしこちらが武器を放棄したところで他国が武器を放棄してくれるだろうか。中国やロシアに対して「おたくが軍事拡大するのなら、当方も防衛力増強せざるを得ない」と対応するのが現実的な話し合いである。

「当方は武力を放棄し、そこからへ攻撃しない。だからこちらへも侵攻しないでほしい」と言えば、当初は約束するとしても、こちらが武力を放棄した時点で侵攻してくるのが中国やロシアである。チベットのや内モンゴル、クリミアの例を見れば明らかだ。

さてお話を変わって違うニュースの話題へ元旦の能登

半島大地震直後、某活動家がX（旧ツイッター）に次のような投稿をした。

「自衛隊は被災地に行かないでください。人殺し集団が、軍服を着て被災地に入ると、それだけで恐怖する人がたくさんいる。子供も泣き叫ぶ。お前たちがくる場所ではない」

こんな問題提起は平時に有効であっても、非常時には不謹慎でしかない。普段は左派に同情的な人々でさえ眉をひそめ、さすがに「今その発言はまずい」と呆れているのではないか。過激な行動や言動は、一部の同志に喝采を浴びても、もっとも取り込みたい中間層には逆効果であり、同志を増やすつもりが、左派に同情的な人でさえドン引きしていく、自己満足以外の何物でもなくなってしまうのだ。

彼らの言動をみると政治的効果よりも自分は反対運動しているんだという自己満足ではないかと思われる。♪自衛隊に入って華と散る戸ではないが、♪反対運動して華と散る戸であって、自分達と同調者を増やすことに重点を置いてないように見える。



# 保守自民党は 何故強いのか？

(その1)

東京 三田 栄考



安倍晋三氏最後の安倍派パーティ (2022年5月)  
安倍暴走を許したのは自民党各派、野党、国民の責任か？

裏金||脱税も派閥を解消したら自民党の反省と政界の改革は終了の雰囲気だ。まるで政界イコール自民党の如きで、自民党が決めればそれで政治が決まるようだ。野党が束になってかかっても自民党政権はゆるぎないと国民は思っている。自民党の強さの源泉は幾つもあるだろう。その強さを手ざぐりして何回か投稿してみたい。

**人の集まる処にボスが生まれ、昔も今もボスは現体制支援者になる。**

渡り鳥に先端を飛びリーダリーがいるように、群れを成す動物にはボスが常にいて他を支配、指導している。人間界も同じでボスは自らの保身も含め現支配体制を擁護する立場になる。それも自分の権力・影響力を最大限に活用し

て。彼らは自分が成功したから現社会体制で努力しようまくやれば勝ち組になれると思ひ込み、国民にそのように吹聴する。が、大多数の国民は幾ら頑張っても成功できない。同時に従順に従う性癖を身につけた大人しい国民に成らされた。明治維新も武士階級内の争いで現代評価されているほど下級武士が一挙に活躍で

きたはずはない。議会開設も上からのものであって、やつと普通選挙権運動が国民運動と言えよう。実態はごく一部の先駆者の活動に過ぎなかった。近世以降先駆者の活動のおこぼれを国民が享受していると言おうと叱られそうだが。だから多くの国民は本質的には参政権を積極的に必要とは思っていない。ただ、民主主義を是とする時代だから肯定的に受け入れていくに過ぎない。他方、相変わらずボスたちは、彼らにお追従を述べ、余得にありつきたい連中を囲い込み、自分達の都合の良い社会を維持しようとしているのが、近世の日本の状況である。

**ピラミッドをご覧下さい、何を感ぜますか？**  
世界の観光客は5千年前の建造物に感動する。タージマハールも然りだ。一人の権力者のためにどれだけの奴隷が犠牲になったことかと思ひ馳せる人は少ない。昔はそれほど王の権力が強かったのが、中世以降に一向一揆、百姓一揆、米騒動などで少しづつ庶民が権力者に抵抗することを学んだ。

我々は生活苦にあえぐ人を

**アンチ自民党の活動家はイデオロギーの時代は終わったのか？**

私は自分の生き方を大事にしたい。それは思想に成り、イデオロギーになる。が、世

間はイデオロギーを必要としない。過剰だと嫌われる環境にある。現代社会はいや古来より大半の人々はイデオロギーと無縁であった。反原発、護憲、反戦運動もイデオロギーが前面に出れば、参加しにくいと感じる人々も多い。彼らの力関係も検証しながら対応策を変えないと元も子もなくなってしまう。反対運動をしているから自分は正しいと自己満足の為に運動している人がいるように思える。我々は活動が目的化してしまつて、我々の理念を少しでも勝ち取る工夫が少ない。反対ばかりしてきて、次々に負け続けて来た。平和憲法とは名ばかりで9条どころか平和主義すら軍事主義に変わらつた。9条にこだわらず平和主義を保守層に守らせる知恵が我々にはないのか。護憲運動もイデオロギーと捉えられる。イデオロギーよりも現実的対応を図ることこそ我々の目的を叶える道である。野党は反対運動よりも、昔への追憶運動よりも将来を見越すビジョン・社会像を示さないと大衆は保守にしか興味を示さないだろう。

## 自民党の金権体質を変えるには 政権交代しかない

立憲民主党埼玉第8区総支部長  
(所沢市・ふじみ野市・三芳町)

いちき  
市来  
ともこ  
伴子



昨年末から政界を揺るがす裏金問題。突如、岸田首相

は1月19日に宏池会(岸田派)を解散することを表明、同日自民党の二階俊博会長と塩谷立座長は志帥会(二階派)、清和政策研究会(安倍派)をそれぞれ解散するとしました。岸田首相の派閥解散のメッセージは驚きをもって受け止められ、決断力で政治改革に取り組む印象を与えています。しかし今回の派閥解散は、裏金の実態をこれ以上把握させないための隠ぺいと誤魔化ししかありません。

## 実態把握をさせない隠れ蓑、派閥解散

二階派と岸田派は裏金疑惑について一貫して「記載ミス」であると主張し、解散表明前日の1月18日に収支報告書を大幅に修正しました。その修正内容は、二階派「志帥会」は「翌年繰越金」を直近で約1億4837万円(2022年度)、岸田派は約2500万(2020年度)も追加修正しています。

一方で支出はほとんど修正せず、二階派はキックバック政治家への寄付を7名追加しただけ。宣誓書には「寄附に係る支出のうち一部の支出をした日について特定することができないため記載できません」と手書きで記入しています。つまりその他大勢の

キックバックは日にちがわかからないので記載できないと書いてあるのです。しかし7名分の寄附をみると日付は「不明」としておりその理由にまったく整合性がつきません。「収支報告書を修正する」と明言していた岸田首相ですが、驚くべきことに岸田



ふじみ野駅で街宣活動

派は支出をひとつも修正していません。実は派閥を解散すれば、キックバックの記載義務がなくなります。これではキックバックの内容を明らかにしないと宣言しているよう

なものです。仮に派閥を存続した場合、派閥が政治家に渡したキックバックをひとつひとつ記載し、さらにその修正に基づいて、政治家が自身の政治団体の収支報告書を過去数年に遡り修正する必要があります。ただそもそも裏金として使わ

れたお金ですから、収支のつじつまが合わなくなるのは目に見えています。つじつまを合わせるためには、キックバックを受けた政治家が何に使ったかわからないお金を何とか思い出して収支報告書の支出に記載するか、あるいは受け取ったキックバック分のお金を政治家が自ら用意し政治団体の会計に戻すしかないのです。派閥から政治家に渡したお金の「つじつま合わせ」は、新たに相当な現金を必要とする可能性があります。それならいっそのこと派閥を解散してキックバックの記載義務から逃れた方がいいとの判断が透けて見えるのです。派閥を解散すれば、記

載義務から逃れるばかりでなく、政治団体を解散したその日から1万円以下の少額領収証の開示をしなくていいというルールが適用されます。記載したくない支出や他に何らか隠したい点があった場合、派閥の解散は隠れ蓑になるのです。

派閥解散は裏金の実態を把握させないための手法です。解散さえすれば一件落着きという「派閥解散」のロジックに惑わされてはいけません。仮に派閥を解散しても裏金の実態を明らかにする責任が自民党にはあります。また派閥の残金にも注目する必要があります。裏金問題が明らかになるまでの各派閥には数百万〜1億円程のお金が繰り越されていきました。解散した時点で現金がいくらありどのように処理するのか、いずれまた結成されるグループの原資に使われては本末転倒です。権力の源泉がお金と人事である自民党には政治改革はできません。国民のための政治を行うために政権交代を実現し、裏金問題にみる日本政界の闇に切り込んでいきたいと思えます。

市来伴子：1977年宮崎県生まれ。関西学院大学卒業・同大学院修了。学生時代、アジアで目の当たりにした貧困に衝撃を受け、貧困問題をテーマとする国際NGO支援活動を開始。政治を志し衆議院議員秘書を経て、2期8年杉並区議会議員を務め、大河原まさこ議員政策秘書となる。23年12月立憲民主党埼玉第8区総支部長に就任。



# 先島諸島訪問記(2)

下町の法律事務所弁護士

栗原 周成

周成

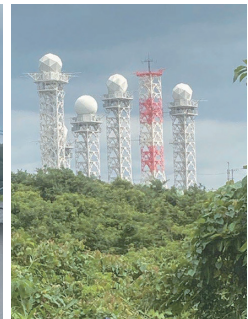
二日目は小さなプロペラ機に乗り換え、人口1500人の小さな与那国島に向かいました。

日本最西端の島で、私たち一行を迎えに来てくれたのは最西端観光(株)のバスです。いやがうえにも、最果ての地に降り立った気分させられます。

バスで40分程度で一周できる島の二カ所に、自衛隊のレーダーが設置されています。インビ岳(海拔162m)山頂に聳える5本の巨大なレーダーと標高56メートルの久部良集落から最短で180mの地点にあるレーダーです。

周辺海域・空域を常時見張っているようですが、久部良集落では、強い電磁波による健康被害と、有事の際に集落も真っ先に攻撃対象となるのではないかが心配されています。

集落の一角に建つ久部良中学正門脇の壁には、台湾有事など想定されていなかった時期に書いたと思われる「ようこそ台湾の見える久部良中



インビ岳レーダー



久部良レーダー



久部良中学の壁

へ」との標語が目につきます。

まずは島内一周をと、日本最西端の西崎灯台から与那国馬の馬糞が散らばる東崎、町役場のある祖内集落を経て、比川地区の比川公民館にて昼食。与那国島にはコンビニはなさそうなので、弁当は比川地区共同売店での購入です。昼食後、腹ごなしに比川浜まで散歩し、Dr.コトー診療所を見学。映画の撮影に使

われた診療所は、そのまま残っています。

比川公民館に戻って、地域の10名の皆さんから、こどもも与那国島の陸上自衛隊駐屯地への思いを語ってもらいました。

2015年2月22日陸上自衛隊配備の是非を問う住民投票が行われたが、それは実質的に配備が決まった中での投票であったため、賛成632票、反対445票で容認されて、心が折れてしまった。

当初駐屯地に配備されているミサイルは島を守るための迎撃用と説明されていたが、



与那国馬



比川公民館



Dr.コトー診療所

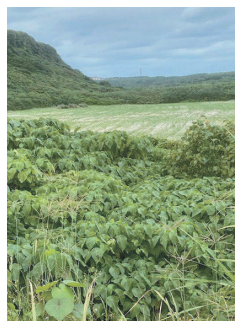
2022年12月の安保三文書の閣議決定により、近い将来長距離のミサイル(スタンドオフミサイル)配備に転換する可能性が出てきて心配だ。有事の全島避難計画も、詳細は何も決まっていない。たとえ島から脱出できたとしても避難先は分からない。村長は「人口減対策」「島の活性化」の観点だけで自衛隊駐屯地誘致を決めたというが、現状は真逆だ。基地建設ラッシュで島内のアパートの家賃も急増し、若い人がアパートを借りられず、島外へ逃げ出している。この島は人と動植物が共生しているの、このような環境を壊されたくない。

こんな挫折体験、不安の声の合唱の合間に、島内にある3軒のガソリンスタンドのうち2軒はエネオス系だが、エネオスが駐屯地賛成派ということで、残ったガソリンスタンドへ賛成への圧力がかかっている。久部良漁港の漁師がコロナ禍で収入が減っている中、尖閣列島へのデモンストレーション出漁で国から多額の日当がもらえるということ賛成派に寝返っている。

といった賛成派による反対派切り崩し策の実態なども語られました。



カタブル浜



樽舞湿原

与那国島南部にリーフトンネルという珍しいサンゴ礁の浜カタブル浜と、環境省が「生物多様性の観点から重要性が高い湿地」に選定している樽舞湿原があります。現在これらの豊かな自然を破壊して軍港を作る計画も進められていると言います。

島民をだまし討ちにし、お金で目くらましをしながら、住民の不安に答えないうまま進められている陸上自衛隊駐屯地整備工事。

その上、取り返しのでない環境破壊まで行おうとしています。

島民の皆さんに寄り添ってできることは何なのか? 答えを見いだせないまま島を後にしました。

(つづく)

# 軍隊をも持たない

## 多様性国家

在コスタリカ20年  
ネイチャーガイド 原田 信也

# コスタリカ



世界一美しい鳥といわれ日本からはるばる見に行くケツァール（筆者のインスタグラムより）

コスタリカは中米に位置する小国で、大きさは日本の7分の1以下の5万2000平方メートル。人口も500万人程度の国です。しかしながらこの国には現在、地球上の約4%の生物種が生息するといふ、世界で最も生物多様性に優れた国です。コスタリカは、決して国土の大半を未開のジャングルに覆われた場所ではなく、むしろ国土のほぼ全ての場所までインフラが発達している、中南米では先進国です。そのような国でなぜ、これだけ

の豊富な生物多様性が存在するのか、私の考察も含め、書き連ねていきます。

気候、地形的要因、生物学的要因はもちろん重要なファクターですが、コスタリカ独自の政治方法など、人的要因に寄ることも重要な要因となっています。

中米地峡は7カ国で形成されています。なぜ、コスタリカにのみこれだけの豊富な多様性が存在するのか。それをひも解くには、20世紀後半の中米史、そしてコスタリカが辿った特異な政治が関係してきます。20世紀は冷戦時代、

そしてラテンアメリカでは内戦の時代でした。

コスタリカはそのような時代にあり、内戦とは全く無縁に発展を続けてきたのです。1948年、



ケツァールの棲む森のローカルガイド・アレックスさんと筆者

選挙の不正によって勃発した内戦が6週間続きましたが、この内戦に勝利したホセ・フィゲレスが大統領に就任すると、彼は新憲法を施行し、この憲法の12条において常備軍の廃止を明記しました。

「恒常的制度としての軍隊を禁止する。公共秩序の監視と維持のためには必要な警察隊を置く」と明記されています。

軍隊を廃止したことが功を奏し、後の冷戦時代に大きく巻き込まれることもなく、内戦もない平和な20世紀を乗り越えることができたこと、これが現在のコスタリカを形成する大きなポイントです。新憲法には、同時に女性やカリブ海のプランテーションで働く黒人たちの参政権も認められています。実質的に、人種、性別の差別も廃止しています。軍隊を廃止したことによって、国家予算から軍事費

がなくなり、結果的に、教育、インフラ整備に大きく予算を割くことができました。現在、国内のどんな辺鄙な場所に行っても、小学校、そして生活のインフラは整備されています。

憲法におけるの特筆すべき点は、独裁を防ぐため、大統領、国会議員は連続再選が禁止されていること、閣僚と国会議員は兼任できないこと。代表的な三権（司法、行政、立法）以外に、選挙最高裁、会計検査院、検察庁、住民擁護官が独立した強い発言、影響力を有しています。全ては、政治の独裁につながらないよう、権力を分散させる工夫です。

コスタリカも、20世紀後半までは無計画な開発により、国土の80%近い森林が消失され、大規模プランテーション等による農場に変わっていました。1970年代後半より、コスタリカをフィールドとする生物学者たちの取り組み等により、消失した森林が徐々に回復され、現在は国土の60%近くまでに回復しています。経済政策としての大規模農業から、持続的開発を可

能とした農業、そして現在最も大きな産業となりつつあるエコツーリズムに産業をシフトしてきた結果です。その結果、生物多様性が守られ、80年代以降、コスタリカの自然環境は回復傾向にあります。

コスタリカでは、小学校から繰り返し平和教育、そして環境教育が行われています。低学年の子どもたちには刷り込むように、高学年になると子どもたちでディベートなども行い、徹底的に意識を植え付けています。その結果、平和憲法を重視し、環境問題をしっかりと考える人物が育つ背景となっているのです。エコツーリズムという概念は、資源を持たないコスタリカにとって、自然環境を重要な経済的資源と認識させ、実際にコスタリカの収入としては一番大きな財源となりました。平和国家というコスタリカを見ていく上では、単に軍隊を廃止した平和な国という一面だけでなく、多様性を認め、受け入れられているという事から全てが繋がっている、という認識で見えていただくと、色々なヒントが生まれてくるのではないかと思います。

原田信也：日本人客を案内するネイチャーガイド。東京都出身。2003年に、当時関わっていた環境保全NGOがコスタリカの保全地区に支援を行っていた経緯で、グアナカステ保全区域、モンテベルデに滞在するうちに、コスタリカの自然にハマり長期滞在へ。コスタリカ的生活が肌に合ってしまう、コスタリカ生活を始める。目標とする生き方はナマケモノ



## プーチンと同じ蛮行、秀吉の朝鮮征伐？侵略！

# 寵臣の石田三成が 身を挺していさめたが……

佐和山 島 左近

石田三成は太閤秀吉に向き合っていた。信頼し合ったはずの二人にピーンと緊張の糸が張られ、今にも秀吉が爆発させんばかりであった。

「そちはわしの唐入りをやめさせようとするのか！」

「殿下、お分かり下さい。殿下にとって唐入りは良き結果をもたらしませんぞ」  
「黙れ！ 信長公も望んでおられたことぞ」

三成は一呼吸間を取って姿勢を正した。周りの武将の誰もが口を挟もうとしなかった。秀吉の怒りが恐ろしく自分に向けられたら立場どころか命まで失いかねない。

「某は殿下に認められ、天下の政（まつりごと）に参与させていだいて

おりますことに万感の有難さを感じております。殿下の為なら如何なる……」



関ヶ原の戦い 大一大万大吉は三成の旗印

「わしが唐入りすれば直ぐに朝鮮王朝は吾に降るはずだ」  
「殿下！ 朝鮮と日の本は違います。朝鮮は明国への道を開けず明軍の助けを受けて朝鮮の地で吾が軍との戦いになり、とても唐の国までも攻め込めません」  
「明や朝鮮の兵を何するも鎌の蒙古に攻められても鎌

倉武士は撃退したではないか、しかも日の本の兵は戦国の世で戦いにより強くなったではないか！ そちは天下人のわしが決めた唐入りに励めば良いのだ！」  
「殿下の為に反対申していません。百姓の子として産まれ、関白・太閤と位人臣を極められた殿下の生涯を大きく汚すからです」

「だまれ！ 汚すとは無礼ぞ、三成身の程を知れ！」  
「殿下に引き立てていただいたこの三成故に申しあげております」 悩みに悩んだ末の諫言であるから三成は静かに答えた。

「殿下の唐入りの目的は何でしょうぞ？」  
「知れたこと、唐を吾が配下にせることぞ」

「唐の国は広く大きくとも彼地の全体を支配できるほど勝てるわけがありません。殿下の思われる勝利を収めるのは何年掛かるでしょうか？」

吾が国の武士はどれだけ倒れるでしょうか？ 唐・朝鮮の兵士はいかほど命を落とすでしょうか？」  
「ウム数万では済むまいな」  
「戦いは10年以上、死者は10万いや両国で数十万になるでしょう」

「そうかも知れんな」  
三成は矛先を変えた。

「この国を治める殿下が唐入りされようとするなら御寿命も考えおかねばなりません」



蔚山城に籠城する秀吉軍（辛うじて持ちこたえる）

「唐入りのさなかに殿下が亡くなられたら吾が軍は雪崩を打って退却になり、更に多くの兵士が犠牲となり、日の本の大敗北となり申す。殿下は負け戦の大将となります」

「勝てば良いのだ、勝てば。うぬが余計な口出しをすればそちの首を刎ねるぞ」  
「殿下！ 恐れながらこの三成めをおいてどなたが命を賭してまで殿下をおいさめする者がおられますか。誰よりも殿下のことを思う某ですぞ」

さすがに秀吉も三成が死を覚悟していることを見取ったので言葉を抑えた。  
「蒙古のクビライは二度も攻めてきたではないか。わしとどうちがうのか」  
「蒙古はチンギス・カンが国を興し、第五代のフビラ

イ・ハンが攻めてきたのであつて国や皇帝の力が安定しておりました」  
「されば秀頼がわしに続いて攻めれば良からう」  
「豊臣の天下は安泰でしょうか？」

「なに！」  
秀吉の怒りは頂点に達し顔を朱に染めた。  
「唐入りどころか、吾が軍は朝鮮で苦戦に陥り、撤兵を余儀なくされ、諸侯は疲れ、豊家に不満が募り、有力武将らが殿下に反攻し、秀頼公のお命をも縮めかねませんぞ。某はこれ以上申し上げません。唐入りは誰にも益なく不幸のみ招きます。お考え下さい」  
言うべきことを言って三成は静かに退いた。秀吉の目には三成の去る姿は見えてもその先は映らなかつたようだ。

それから8年して三成は関ヶ原で敗れ鴨川の六条河原で斬首、辞世の句「筑摩江や 芦間に灯す かがり火と ともに消えゆく我が身なりけり」。それから15年秀頼も大坂城で自刃して果てた。晩年の秀吉は前半生の活躍をフイにした愚行の数々がある。



連載  
第25回

# タラス・シェフチェンコ

人間と民族の誇りを  
詠った吟遊詩人

鎌倉  
在住 市川 隼

ウクライナ民族固有の言葉で、人間そのものの自由と、ロシアから虐げられて来た民族の誇りを謳い上げ、「国民的詩人」として、ウクライナの人々に愛されて続けている詩人がタラス・シェフチェンコだ。ロシアに支配されていたウクライナのキウ南方モーリンツィ村で、1814年3月9日に生まれ、ロシアのペテルベルグの美術アカデミーで1861年3月10日に亡くなったが、47歳の波乱万丈の生涯だった。シェフチェンコと同時代の

ウクライナ・ロシアの文学者としては、プーシキン、ゴーゴリ、レールモントフ、ツルゲーネフ、ドストエフスキ、トルストイ等が挙げら



タラス・シェフチェンコ (HP)

れる。シェフチェンコが生まれた時代は、皇帝アレクサンドル一世(1777-1825)が統治し、農奴制が敷かれた皇帝専制(ツァーリズム)封建国家であり、アレクサンドル一世逝去によるニコライ一世誕生(1825年)には、ツァーリズムと農奴制に反対したデカブリスト(12月)の蜂起が起こり、仏7月革命は1830年、レーニン主導のロシア革命が成立したのは、約百年後の1917年だった。

に送られたのは15歳の時であり、主人によってペテルブルクに連れて来られたのは17歳だった。シェフチェンコは子供の時に父から読書きを習い、教会で祈祷・聖歌集、詩編等に接する機会を得、画才も評価されており、主人家族の肖像画などを描くと共に、主人の命で、ペテルブルクで装飾画家の工房に徒弟奉公に入り、画家としての才能が認められようになった。画家としての才能が、文人達と交わる事を可能にし、24歳の1838年に彼等の支援で集まった解放金(2500ルーブル)で、エフシエンコは自由の身を得る事



夢 (シェフチェンコ画 1840)

なったのも、シェフチェンコに与えられた運命だった。「農奴制の廃止とスラブ連邦の形成」を目的とした結社活動で、ウクライナ知識人達が1847年にキウで検挙された時、一緒に検挙されたシェフチェンコの手書きの詩集『3年』に書かれた詩が反政府的であり、その中でも『夢』(1844)が皇帝・皇后を侮辱した不敬罪として、皇帝自らが「書く事も描く事も禁じる」として、シェフチェンコが流刑に処せられ、釈放されたのは、皇帝の死後の1857年だった。貴族出身の首謀者たちは、軽い刑に処せられたが、首謀者でもなかったシェフチェンコに重い刑が処せられたのは、シェフチェンコが農奴出身だった事に加え、ウクライナ独立への飽くなき情熱が、恐れられたと云える様だ。

となつたヘーチマン国が成立したのが1649年だったが、1654年に、ポーランドとの戦いの為にポフダン・フメレニツキイがモスクワ大公国に保護を求め、ペレヤスラフ協定を結び、それ以降、1991年に独立を達成するまでの337年の長い間、ウクライナはロシアの属国扱いを受け続け、シェフチェンコが誕生した時代には、小ロシアと呼ばれ、ウクライナ語には正当な評価が与えられず、ウクライナ出身のゴーゴリの作品はロシア語で描かれた。シェフチェンコは、『暴かれた墳墓(モヒラ)』で、ロシアの属国への道を選んだポフダンに対し、「...ああ、わたしのポフダンよ! こうなるとわかっていたら、赤子のうちに お前の呼吸を止めてしまったのに、添い寝の胸で、おまえの息の根を止めてやったのに...」(藤井悦子訳)と厳しい言葉を綴っているが、今のロシア侵攻に抗するウクライナの人々の拠所になつて居るのは、ウクライナ民族の誇りを求め続けた、シェフチェンコの熱い情熱に違いない。



# 「市民参加条例」って何？

「市民参加条例」推進委員会代表 松井 学



ビバ〜！「市民参加条例」

安部派5人衆は、お縄にならずにスルー！権力を握る人達が法律を作っている。まるでドロボーに鍵を注文するようなもの。この国は完全に腐りきっている。

長年、利用し愛され続けて

きた市民病院が、ある日突然、市当局から閉院（令和6年3月をもって）の知らせ。また支所（町合併の際、町民の不便を配慮し一部を残す）の廃庁の決定。「経費がかさむ」がその理由。他方で巨費

（60億円〜70億円）を投じて

体育館・図書館等の建替え計画。また、その昔、箱物作りが流行った時代に建てられた訳のわからない老朽箱物施設に再度巨費を投入。有事には病院の存在が命の明暗を分けます。特に市民のコントロールが効く公の市民病院の存在は大変重要ですよ（私設病院は資本の論理によって動き、市民コントロールの外に在るからです）。市民のためにあるべき行政が、市民の声や同意をスルーしたらアカンのです。市民が行政に対して、「ノー」が言える状態にせねばならんです。それが「市民参加条例」創設を叫ぶ声に……。以下は市民有志たちの会話です。

**R子** 「市民参加条例」って、何？

**I男** 市民の声を市行政に届けるための条例なんですよ。

**G子** いいじゃない！是非！是非ね！

**H男** 森加計桜、嘘をつく、公文書を改ざん、マイナンバーカード、五人衆のお縄スルー。何一つ国民のためを思っているの政治が行われていな

い。

**T子** その構図は地方自治体の行政でも全く同じよね。

**S男** せめて大阪の片田舎、藤井寺市からでも、本当の意味での市民による市民のための行政を手に入れなきゃ。

**G子** だよ。市は、『市民協働！市民の声を聞きます！』などと、耳ざわりの良い言葉をならべる。その実、市民の命にかかわる重要案件については事前説明はおろか、チャンとした情報も伝えない。事後報告でお茶を濁して終わり。

**I男** ほんまや、病院の存在は市民の命に直結するモンや、それを利用者である市民の声を聞かずに閉院決定。こんなアカンでしょう。

**G子** だから市民の声をチャンと行政に反映させるシステム「市民参加条例」が必要よ。

**R子** でも、なんで条例？

**T子** 条例は法律と違って地方自治体で制定（憲法92条）することが出来るのよ。それに条例に定めたら、市当局も口先だけのリップサービスでお茶を濁らせて終わり！にはできないでしょう。

**R子** なるほど。

**T子** それに憲法が目指す究極の理念は人権擁護。だから憲法は権力を縛る規定だと言われているんですよ。その憲法が地方自治体に条例制定権を認めているんですよ。

**T子** また憲法が定める地方自治には団体自治と住民自治との二つの要素が在ると解され、1つは国に対する地方自治体の自治。他方は、地方自治体に対する住民による自治。後者の住民自治を具体化するために条例を定めてもエエとしているのが憲法なんです。

**R子** 自治って何？

**T子** 自治って、自分達のこと自分達で考え、自分達の判断で決められる、また権力に対してダメなことはダメ、間違ったモノは間違っていると言え。これが自治や表現の自由の根本理念なんですよ。

**H男** だよ、憲法（12条）でも言っているよね、人権を守るためには不断の努力をせなアカンって。「市民参加条例」制定の声や行動は、まさに人権を守るための不断の努力の現れなんですよね。

## 映画監督にして画家 増山麗奈の駆け巡り!



### 第23話

## 消失した街ガザ北部ベイト・ハヌーン イスラエル軍でも広がる厭世気分

11月28日、12月4日、ガザ地区まで1キロのキバットコビ地区、そしてイスラエルのテルアビブに滞在。

### 2ヶ月の攻撃で3万人都市が 消滅

11月29日にはギバットコビ地区やガザ北部地区ベイト・ハヌーン方面から「大量の黒煙が上がっている様子」を通信会社ウエストイーストプロダクションの樽谷大助代表が目撃し動画に記録する。ベイト・ハヌーンは、10月7日

以前にはパレスチナでも屈指の住民密集都市として賑わっていた地区だ。3万2000人が住み、その4割が学生と若者である。しかしその賑やかな地区も、イスラエル軍の空爆を経て、インターネットはもとより生活インフラがほぼ破壊され、住民の多くが死亡・負傷した。住民のほとんどは避難し、現在は完全にイスラエル軍が支配している。たった2ヶ月で3万人の街が消滅したことになる。

ギバットコビ地区では、イスラエル軍の戦車が列をなし攻撃に備えていた。樽谷氏は休息するイスラエル軍兵士に取材を試みた。

「我々はプロの兵士ではない。学生で学費のためにやむなくここにいる」と25歳の兵士が本音をこぼした。筆者が取材をした兵士は「休暇中に妻として一歳になる娘と束の間の家族団欒を過ごした。本当は家族と過ごしたい」と寂



一般社団法人ユーラシア国際映画祭代表理事映画監督イスラエルの戦場にて筆者



戦車のイスラエル軍

しそうな顔で語った。誰が、何のために戦っているのか、イスラエルでも疑問の声が始めている。

### ガザ 負傷した子、逃げまどう人々

樽谷と筆者は、ガザ在住ジャーナリストのサメハ・アハメッド氏とも交流を続け、彼が撮影した写真を雑誌「フライデー」に提供している。休戦停止後の12月2日、サメハ氏から「空爆で怪我をした子どもの姿」や「馬車やジープで命からがら避難するガザ市民の混乱ぶり」を伝える動画が送られてきた。「現在パレスチナ内部では、銀行も破

壊され、生活を維持する資金調達することが難しい状況です」(サハメ氏)。

### 戦争による経済混乱 イスラエルでも

イスラエルでは、10月7日後の攻撃後、世界からガザ侵攻に向けられる厳しい目や、観光客の激減による経済の悪化が社会問題になっている。キリスト教、ムスリム教、ユダヤ教3つの聖地が約1キロ四方の城壁に囲まれた東エルサレム内の旧市街は、世界中から観光客が集まる人気スポットだ。しかし、10月7日の開戦後、旅行客はほぼゼロになった。

旧市街のヴァイ・ドロロサ(苦難の道)ライオン門で、土産物店を経営するシヨーク氏は「開戦から、今日まで一人も観光客が来ない。あれから今日まで毎日店を閉め、収入も途絶えた」と頭を抱える。

「戦えば戦うほど誰も来なくなる。開戦前の賑わいを取り戻してほしい」(土産物店スタッフ)という声も。多くの店はシャッターを閉め、三人に一人が銃を抱えて街を歩

いている。経済が疲弊し、街は荒廃している。まるで世紀末の風景だ。

### ハマスによるテロ被害者の 一人はイスラエル軍の 誤爆で死亡

11月30日にエルサレムで起きたハマスによるテロ事件で、三人のイスラエル市民が亡くなった。そのうちの一人は偶然遭遇したテロリストの発砲に銃で応戦したイスラエル市民だ。テロ現場の一部始終を、家のテラスから見ていたアビブ・シャーク氏は「テロリストが道路側からバス停に発砲した後、妊娠した女性を含む二人の市民が倒れました。テロリストに殺害されたのです。それを受けて、二人のイスラエル市民がテロリストへ発砲したのですが、自国のイスラエル軍兵士にテロリストだと誤解され、誤射を受けて彼らのうち一人が帰らぬ人となってしまいました」

戦えば戦うほど、パレスチナの街は消失し、イスラエルの街も寂れていく。この戦争に勝者はいらぬのか。戦争の荒廃は、あらゆるところに影響を与えている。



## 新聞は時代遅れか

前島 咲子

ここ数年の間に、友人たちの多くが新聞の購読をやめたといっている。

ユーチューブやツイッターなど、SNSの方が情報は格段に速い。しかも、新聞が伝えない出来事を詳細に検索できる。自分の考えを発信し、いろんな考えを持った人と出会うことも出来る。新聞は、メディアとして機能しなくなっている、というのだ。

友人たちの言い分は、よくわかる。私は朝日新聞を購読しているが、理由は単純で、子どもの頃からの『お馴染みさん』だからである。わが家には、朝日新聞と朝日ジャーナルがあった。それらは、子どもの私が社会をのぞき見る身近な窓だったのだ。

新聞を手放せないもう一つ



の理由は、テレビやパソコン、スマホなどの機器を持つ、重大な弱点を考えてしまうからだ。もし電源が途絶えたら、それらは何の役にも立たないただのモノでしかなくなる。この不安定な時代、すべての電源が途絶えるなんてありえないと誰が断言できるだろうか。

人類は何千年もの間、紙ベースで情報を伝えてきた。ユリウス・カエサルという優れた政治家であり、武人であり、文人でもあった男がいたことは、彼が書き残した『ガリア戦記』が証明している。

世界最古の小説といわれる『源氏物語』も、紙に書かれていたからこそ、今に残っているのではないか。

そんな屁理屈をこねながら、私は今日も新聞の切り抜きをしている。読みたい記事を、ゆっくり読むために。こんなやり方、時代遅れかもしれないけど。

## 余録

ある集会で75号を配ったから、帰りがけに、若い娘がこのタウン誌面白いと言っていたよ、と。その場で良かった原稿の感想を依頼した。以下が、その感想文です。へ良かった記事——5ページ「福田村」グラデーシヨンの中

## 編集後記

今号もご協力をいただき百花斉放の誌面となりました。表紙は支援物資を持って現地入りしたフォトジャーナリストの山本宗補氏の写真です。現地の状況も3頁に寄稿してもらいました。次に本誌の社中の某氏が中米旅行の折に軍隊なき、エコツーリズムの国コスタリカで知り合った日本人ガイド氏に依頼した「コスタリカ現地からの報告」(某氏は次号にパナマ運河見聞記を載せるとか)。そして、世界を駆け巡る映画監督の増山麗奈さんのガザ侵攻のイスラエル・軍事報告。更には下町の弁護士栗原周成氏の沖繩先

で物事を捉えたいという考えにとっても共感できる内容。6ページ「海洋汚染」誰もが良くないと思う出来事から、理解しあいながら平和を保つのも義務という考えが魅力的。同時に2度と同じ原発事故を繰り返してはいけないと思った。8ページ「食」国産、無農薬の物をなるべく買ってしたが、最近の値上げにより

鳥諸島の軍事施設視察記。それに不祥事続出の東京江東区長選挙を闘った中心メンバーの元区議の甚野謙氏の敗戦の弁など。私たち市民が政治に物申す反対運動にはさまざまな表現や方法があつて然り。寄稿された「極端な反対運動は逆効果」には賛否あるでしょうから誌上でのキャッチボールになれば幸いです。普段から国民の関心の薄さに嘆く人、騒ぎ・わめくのはやめてくれと苦々しく思っている方もご意見を寄せて下さい。そして「なぜ自民党は勝利し続けられるのか」も一読を。更には衆議院選挙に新たに埼玉所沢で挑む市来伴子さんの派閥解散批判と続きます。

SNS上で本誌への感想文が

節約する事に抵抗を感じながらも慣れてしまっていた。改めて食の大切さを見つめ直すことができて良かった。12ページ「恩送り」世界平和を願う中、このような人と人との繋がり、感謝の気持ちがとても大切だなと思つている。こんな記事がたくさん広まれば平和な世の中になっていくような気がする。▽

掲載されていると連絡をもらいました。一部をご紹介すると、誰とも知らない人が、最初から責任を取る気もなく、ただただ垂れ流す情報の山。それらが無検証で拡散された結果、情報とも言えぬようなゴミの海。それが身体に染みついた昨今、あつて、名前の分かる人により、「伝えたい」という情動を伴って書かれ、一定の基準をもつて編まれた、この文章の集合体の「上質さ」が何とも心地よかったのだ。：視点は栄養に似ている。有益な視点も、そこだけに偏つていたら害になる。賛同するしない関係なく、バランスよくさまざまな視点を意識して「接種」する必要があるなと思つた▽と背中を押してもらいました。ありがとうございます。

上段のカットは漫画家志望の修行中の方に依頼しています。  
読者で彼にリクエスト・アルバイトを希望・問い合わせは本誌までどうぞ。

# 不祥事続発で全国注視の 突然の江東区長選挙顛末記

前江東区議会議員(立憲民主党)  
甚野 謙

令和初の統一地方選挙で新しい時代の江東区長が誕生し、その舵取りに真面目な期待を寄せていた令和5年10月26日、新区長が突然の辞職を表明。その日から、翌年の都議補選(都知事選と同日)や衆院選までを視野に入れた戦いが始まった。

前年の杉並区長選や同年10月の立川市長選などを参考に、いわゆる市民と野党の共闘で戦うことを前提に、急ぎ候補者の擁立に動き出した。当初より意中の候補は、同年4月の区議選で8067票を頂き全体の3位で当選、2期目の任期に入っていた酒井なつみさん、37歳。彼女であれば、前区長の施策の方向性や決定過程の変化などの良い面を受け継ぎつつ、区の職員の皆さんと一丸となって全ての区民に寄り添う「シン区政」を担っていきける。それは、酒

井さんが無所属で区議選への挑戦を決めていた頃から5年間一緒に歩んできた、ぼくなりの確信であった。



投票前夜、門前仲町スーパー前で打ち上げ集会

それは、立憲民主党東京都総支部連合会(都内衆院30選挙区の総支部などの連合体)の長妻昭会長、手塚仁雄幹事長とも完全に一致していた。両衆議院議員との直接面談なども経て、本当に限られた時間の中で酒井さんが「私がい

るしかない。やると決めたら勝つしかない」と決意を固め、11月16日の出馬会見に漕ぎ着けた。

この時点で告示(選挙開始)まで残り17日。訴えていく政策の整理や、事務所の確保、ポスター作成などの実務面の準備を急ピッチで進める一方で、共闘への環境作りには、それこそ候補予定者が決まる前から連日取り組んでいた。

江東区での野党共闘は平成28年の都知事戦が初めてだと思う。その後令和2年の都知事選を経て、翌年の衆院選で本格的に結集することが出来た。この経験から、江東市民連合さん・共産党の江東地区委員会さんとはすぐに連絡を取って協議が出来た人間関係は作れてはいたが、区長選で共闘を実現させるのは今回が初めてであった。

それでも、酒井さんの区議としての言動や人柄、掲げる政策などにも共鳴頂き、極めてスムーズに枠組みは整っていった。前二者に留まらず、東京・生活者ネットワーク、市民の声・江東、緑の党、社

民党、新社会党、れいわ新選組といった方々が支持を表明、若干の濃淡はあるにせよ、次々と参戦して下さった。こうした流れの中で、しいて誤算と言えば、自公が都民ファースト(つまり小池都知事)とタッグを組んで都庁の現役女性幹部を担ぎ出したことと併せて、無所属の女性区議、それも同世代の同期、子育て mattered 中など、酒井さんと属性が被る方の直前での出馬表明だった。

正直に言えば、4月の区議選では酒井さんを押さえてトップ当選をしていたこの方の集票力を、ぼく自身は甘く見ていた。これまでの言動などをきちんと比べてもらえれば、確かな責任を持つて区長という職務に臨めるのはどちらかなと言うまでもない、と考えていたからだ。

だが結果は、自公都ファの候補者が5万7029票で当選する一方、酒井さんと件の方が3万4292票と3万132票、ほぼ真つ二つに割れてしまった。さらに、ここ10年程衆院選と区長選に出馬し続けている50歳代の男性候補が2万8000票余を獲得、



敗戦決定直後、事務所で応える酒井なつみ

3人合わせると9万票を超える。こんな構図を作ってしまったのは勝てないと、改めて思い知らされた。

酒井さんこそが立憲の候補者、共闘の候補者なんだと、より鮮明にアピールしていたら結果は異なっていたのか。10年にわたり駅頭とポスター貼りだけを一人続けてきた方の知名度を上回る活動が、立憲江東として出来ていなかったのか。当然ながら、敗者に課題は多く残った。

それでも、落選が決まった直後に、支援頂いた皆さんの前で酒井さんが話した言葉は、ぼくの気持ちそのものだった。「私たちの挑戦は、これからも続きます。」

マスコミが面白おかしく書き立てる「江東三国志」なる古い政治体制があるとするなら、そこから「きつぱり決別」する戦いは、今年も続いていく。

不祥事：秋元司自民党国会議員がカジノ収賄で2019年逮捕。榎本雄一元区議会議長が清掃管理業務で収賄で逮捕。昨年木村弥生元自民党国会議員が選挙違反で区長を辞職。柿沢未途自民党衆議院議員が選挙買収で今年1月逮捕、議員辞職にともなう、4月に島根、長崎と共に注目の補欠選挙がおこなわれる。野党共闘になるか。